

## 磯の生き物発見ツアー

対 象：小学校 4 年生～大学生  
 人 数：1 クラス～5 クラス  
 教科／分野：理科・社会・家庭・国際  
 授業時間数：1 時間～4 時間  
 場 所：磯・砂浜・レクチャールーム

ESD プログラ ムへの 想い	流域人口を含めると 3 千万人が暮らすといわれる東京湾を題材とした学習プログラムです。私たちの暮らし、特に水の循環について密接に関係する海には、実に多様な生き物たちが暮らしています。過去この海を汚染してきた負の歴史について学ぶ機会もあえて入れています。技術的改善や教育はなされてきましたが、今がベストではなく、将来世代への思いも含めて常に考え続ける「きっかけ」になればと思います。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者が、人間にも生き物にも心地よい海の環境について考えられるようになる。</li> <li>・学習者が、海辺で活動するための安全に関する約束事を遂行できるようになる。</li> <li>・学習者が、生き物の捕獲の仕方を学び、実践できるようになる。</li> <li>・学習者が、海の生き物の生態や多様性について関心を持つようになる。</li> <li>・学習者が、生き物に触れて、観察して、絵や写真・動画で記録できるようになる。</li> <li>・学習者が、海中ゴミや漂着ゴミを拾えるようになる。</li> </ul>
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実体験を重視したところ</li> <li>・黒潮の流れや東京湾の特性について学ぶ活動をいれたところ</li> <li>・学習指導要領における集団宿泊・自然体験活動の機会を念頭に置いているところ</li> </ul>
持続可能 な社会づ くりの構 成概念	多様性（同じ環境に生息する生き物同士の生態と関係性を知ることによって理解する） 有限性（生息環境も生息数も周囲の変化に順応していることを知ることによって理解する） 公平性（世代間の公平性、種間の公平性について理解する） 責任制（人間の経済活動が与える影響について知ることによって理解する）
重視する 能力・態 度	①批判的に考える力（汚染や温暖化など人間社会の経済活動の影響について考える） ②未来像を予測して計画を立てる力（悪影響を受けた自然環境の復元の道筋の議論を経験） ③多面的、総合的に考える力（多様な意見を聞く機会と聞く力） ⑤進んで参加する態度、（地域の海に関する愛着とそれにつながる楽しさを共有）

### プログラムの流れ

時 間	ねらい	方法 場所	内容
1 時 間	現場での気づき頻度を高めるための予備知識を得る。	レクチャールーム	海辺の活動場所の状況について写真・動画・冊子を用いて学ぶ。 ・安全を担保するための約束事について冊子や写真を題材として学びます。 ・東京湾とはどのような海なのか？について地理的に、歴史的に知識を習得します。 ・同じく観察できるであろう生き物の生態について、写真、

			動画、標本を用いて学びます。
2 時 間	実体験を通して海の環境や生物を観察する・感じる。自分で海に入れる知識と技術を得るための経験を積む。	磯場 砂浜 浅瀬	<p>徒歩移動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■セーフティトーク・活動エリアを監視するための人員配置を確認します。</li> <li>■バディシステムを組んで、その意味について説明する。 (独りぼっちにならない！活動エリアを外れない！)</li> <li>■ライフジャケットの着用状況についてバディチェック。</li> <li>■活動エリア範囲について具体的に確認。</li> <li>■生き物捕獲方法のレクチャー（濡れた手で触れる。隠れ場所、動かした岩の復元の約束など）</li> <li>■タモ網・観察ケースを用いた捕獲・観察・解説の連続。</li> <li>■なぜその場所で生きているのか？繁殖できるための自然環境とは？というところまでを説明する。</li> <li>■最後に砂浜の漂着ゴミの観察。出所を予測する。海の水は世界を循環していることとその影響を考える。</li> </ul>
1 時 間	経済活動と自然界とのつながりに気づく。私たちにできることを考える。	レクチャー ールーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生体サンプルを顕微鏡などを使いじっくりと解説する。</li> <li>■生き物の絵を書いたり、感想を書いたり、延べたりして全体でシェアする。</li> </ul>
SDGs との 関連性	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> <p>1 2. つくる責任 つかう責任 (砂浜の漂着ゴミについて学ぶ)</p> <p>1 4. 海の豊かさを守ろう (多様な生き物が生息する東京湾について、食糧生産の場になっていることも学ぶ)</p> <p>1 5 陸の豊かさを守ろう (たいぶさ岬が魚付き林になっていることを現地で学ぶ)</p>		
学校・地 域等との 連携上の 考慮	<p>宿泊型のいわゆる林間臨海学校中のアクティビティとして想定する。自然の家等の教育施設を有効に活用することにより達成される。</p>		
対象を発 展させる 可能性			
その他 補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>■水分補給用の水筒、帽子、クラゲ・磯岩から皮膚を守るための服装、靴下、入水用運動靴を着替え、タオルを個人装備で。</li> <li>■ライフジャケット、ファーストエイド、救命浮き輪、タモ網、タライ、観察ケース、エアレーション、非常時用携帯電話、は団体装備</li> </ul>		

プログラム作成者名（団体名）：NPO 法人千葉自然学校